

令和7年（2025年）3月定例会・代表質問

【令和7年度施政方針について】

◆大川秀徳

代表質問の前に、昨年から行われました様々な市制70周年記念事業が、滞りなく完了となりましたこと、おめでとうございます。伊藤市長のリーダーシップと市職員の皆様の全庁的なフォローに対しまして深く敬意を表します。ありがとうございました。

繫を代表しまして、伊藤市長の令和7年度の施政運営に挑む、基本姿勢と市政の諸課題について順次質問してまいります。

令和7年度の施政方針を受け、生産年齢世代、子育て世代のど真ん中の会派、繫の意見として、市民の皆様の声を、エッセンスとして質問を構成しました。議論を深め、市長が掲げる「とことん住みたい 世界とつながる 魅力創造都市」を一緒につくり上げていければと考えています。

初めに、市税収入と財政運営について、お伺いいたします。

令和7年度の当初予算は287億7,000万円で過去最大となります。令和7年度当初予算の概要では、平成28年度から当初予算は上がり続けているが、反対に当初予算規模に占める市税収入の割合は減少しています。

ボートレースまちづくり基金からの一般会計への繰入れはなくてはなりません、2024年のボートレースとこなめの売上げは24場中24番目となりました。

今後の物価、建設資材、人件費の高騰は下がる見込みは少なく、様々な環境変化に柔軟に対応できる財政基盤を確立していくためにも、自主財源の市税収入の増加とボートレースとこなめの売上げ向上による一般会計への繰入金の安定的な拠出と増加が肝要なことから考えます。

厳しい財政状況にあっても、明るくもっと元気な常滑の未来づくりをどのように進めていかれるのか、市長の抱負と決意をお伺いいたします。

次に、本市発展のターニングポイントとなった中部国際空港セントレア開港から20周年を迎えました。

先日には、国土交通省から空港代替滑走路着工の許可があり、現滑走路との2本体制で発着能力が1.2倍となり、国際便・国内便の復活や新規就航がされれば、中部国際空港セントレアを利用される来訪者が増え、宿泊税やインバウンド消費も増えるチャンスが国際空港後背地の常滑市にはあります。

そこで、お伺いいたします。

常滑市が中部国際空港セントレアから、引き続き好影響を受けるために、協力事業や支援事業の連携が肝要なことと考えますが、中部国際空港セントレアの協力・支援について、市長の考えをお伺いいたします。

来訪者の満足度の増加、国内外のインバウンド消費額の増加、満足した来訪者の口コミ数の増加が期待できる空港島シャトルバス運行事業ですが、宿泊税収入の半分を活用します。この事業への意気込みをお伺いいたします。

次に、基本目標の1つ目「子どもが健やかに育ち、輝けるまち」を実現するための主な事業について、お伺いいたします。

食材価格の高騰は、原材料費や物流費、人件費などのコストの増加で、今後も続く見

込みです。野菜の購入を抑えるなど、食卓の栄養バランスの確保に苦労する家庭も少なくありません。

ものの値上げの天井が見えてこない中で、さらに給食費の引上げがあるのではないかと、子育て世帯には心配が絶えません。

そこで、お伺いいたします。

住んでいる自治体で、給食費の無償化、給食費の引上げと格差が出てきています。格差解消のための国や県への要望の現状はどうなっていますか。

令和6年度から設置した、子ども家庭センターの成果をお伺いいたします。

児童育成クラブが、集約実施等で、地理感のない校区外の施設を利用する場合の自然災害等への避難対応についてお伺いいたします。

次に、基本目標の2つ目「創造性や豊かな心を育むまち」を実現するための主な事業について、お伺いいたします。

地域未来塾について。

昨年度から充実を図る点はどこになりますか。また、民間委託に何を期待されますか。

不登校及びクラスに入りづらい不登校傾向の児童・生徒が、安心して過ごせる居場所について、お伺いします。

教育支援センタースペースばる〜んと校内サポートルームの連携の強化に期待する成果は何でしょうか。

不登校の生徒を対象に、専門職が家庭を訪問するアウトリーチ支援の現状はどうでしょうか。

不登校及びクラスに入りづらい不登校傾向が若年化しています。未然防止と早期発見、早期対応につなげるための方策は何でしょうか。

図書館基本構想の策定について、お伺いします。

基本構想策定委員会のメンバー構成はどう考えられていますか。

単独整備の総予算はどれぐらいを想定していますか。

今後、市民ワークショップや基本構想策定委員会を経て、基本構想を策定される流れになると思いますが、この検討中に単独整備の方針を変更することはありますか。

2026年アジア・アジアパラ大会への機運醸成について、お伺いします。

常滑市で開催予定の実施競技、フェンシング、BMXフリースタイル、スケートボード、eスポーツを児童・生徒が体験したり、出場選手と交流する機会をつくることができないでしょうか。

日本財団のパラスポーツサポートセンターより寄贈された車椅子の活用をどうするか決まっていたら、お聞かせください。

2028年に愛知県国際展示場Aichi Sky Expoにて、技能五輪国際大会の開催が決定されました。国際大会の開催を契機に、海外選手との交流事業を企画できませんか。

とこなめ陶の森陶芸研究所について。

とこなめ陶の森陶芸研究所の耐震工法検討のための基本調査の進捗状況をお聞かせください。

平和学習派遣事業について、お伺いします。

令和6年度の募集状況と成果をお聞かせください。また、今後、広島以外への派遣は検討しませんか。

次に、基本目標の3つ目「共に生き、支えあい、安心して暮らせるまち」を実現するための主な事業について、お伺いします。

いよいよ4月1日より、常滑市民病院と半田市立半田病院が経営統合し、常滑市民病院は、地方独立行政法人知多半島総合医療機構知多半島りんくう病院、半田病院は、地方独立行政法人知多半島総合医療機構知多半島総合医療センターに名称が変わります。地方独立行政法人知多半島総合医療機構知多半島総合医療センターは、地方独立行政法人知多半島総合医療機構知多半島りんくう病院の5キロメートル圏内に移転することで、市民の命を守る環境がさらに整備されます。緊急車両退出路整備事業や、二つの病院を結ぶシャトルバスの試験運転事業も、利用者にとって心強い事業です。

そこで、お伺いします。

経営統合後、診療科の増減はありますか。

地方独立行政法人知多半島総合医療機構知多半島総合医療センターへの緊急搬送のアクセスを改善させる緊急車両退出路整備事業の進捗状況はどうか。また、運用開始はいつになりますか。

令和7年度の当初予算で、知多半島総合医療機構事業費は8億円となっているが、今後の推移をどう予測していますか。

知多5市5町による婚活イベント、知多半島で縁むすびプロジェクトの実施方法で決まっていることがあれば、お聞かせください。

次に、基本目標の4つ目「安全な暮らしを守るまち」を実現するための主な事業について、お伺いいたします。

2024年1月に発災した令和6年能登半島地震における死因として最も多いのは圧死で、建物の下敷きになってからの死因として、窒息・呼吸不全・低体温症・凍死・外傷性ショック等を含めると、約9割の方が建物の倒壊で亡くなっています。建物の倒壊が多かった原因として、1981年以前の旧耐震基準で建てられた住まいが多かったことが指摘されています。

そこで、お伺いします。

耐震診断の進捗状況をお聞かせください。また、木造住宅密集地域の防災性の向上策、住環境の改善策は進んでいますか。

令和6年能登半島地震では、断水や下水道管の破損等による、トイレや水の問題も指摘されています。

避難所生活が長くなった場合のトイレや水の問題について、トイレカーの導入、広域避難所へのマンホールトイレや直結給水できる水飲み場の整備が必要ではありませんか。

応急給水栓の設置状況と今後の設置計画をお伺いします。

市民が見るだけのパレード的な総合防災訓練から、簡易トイレや段ボールベッドの設営など、市民が体験する防災訓練へとやり方を見直し、令和7年度の鬼崎地区の開催により、全ての地区が実施されることとなります。令和8年度からの総合防災訓練のやり方と、自主防災組織強化策をどう考えていますか。

消防団員の減少を食い止めるため、出勤報酬を国の基準に準じた金額への改正や活動環境等の処遇改善について、お伺いします。

令和6年度から消防団の活動や行事の見直しを行いました。その結果を受けてどのように消防団の体制強化を図っていきますか。

土曜の午後の受入れや、新施設に資源回収エリア、既存施設に刈草・剪定枝回収エリアと区別することで、利便性が向上される資源回収ステーションについて、お伺いしま

す。

増設した資源回収ステーションの供用開始はいつになりますか。また、既存の資源回収ステーションの仕様変更に伴う臨時休業等は計画されていますか。

資源回収ステーションの区別により、刈草・剪定枝の受け入れる量を増やす考えはありませんか。

次に、基本目標の5つ目「快適に過ごせる生活基盤が整備されたまち」を実現するための主な事業について、お伺いします。

新設した有料の常滑駅東駐輪場の利用状況と、常滑駅東ロータリーの今後の整備計画をお聞かせください。

公共下水道接続報奨金事業の現状はどうでしょうか。

全国で上下水道管の老朽化により事故が発生しています。高度経済成長期に敷設された水道管が一斉に耐用年数を迎えることが原因とされております。上下水道管の老朽化による事故が起きないように常滑市の維持管理の現状をお伺いします。

オンデマンドタクシーmob iの実証実験の結果をどう捉えていますか。

市長は、公園の整備や遊具の改修に注力されております。子供の遊び場が増え、私自身も近隣市町の公園に出かけることが少なくなりました。

既存公園の遊具のリニューアルや大曽公園の再整備による新たな魅力づくりについて、市長の思いをお聞かせください。

次世代の小規模公園、街区公園、農村公園、児童遊園の在り方をどうお考えですが。

常滑市都市計画マスタープランの部分改定について、お伺いします。

広域交流拠点のさらなる機能強化に挙げられた、商業地が立地するりんくう地区周辺の未利用地と旧常滑市民病院跡地の活用促進の状況をお聞かせください。

やきもの散歩道地区など貴重な財産である歴史的な景観の整備・保全に努めるとともに、地域において、修景による良好な景観の創出を図るとされています。古い町並みを楽しむ観光地ですが、個人の所有物ですので維持管理も様々です。常滑市の一番の観光地である、やきもの散歩道の古い町並み等の魅力を未来に残すにはどうしたらいいのか、市長のお考えをお伺いします。

次に、基本目標の6つ目「魅力にあふれ、人が集い、進化するまち」を実現するための主な事業について、お伺いします。

シティープロモーションの一環として活用されるふるさと納税について。

令和7年9月をもって、ふるさと納税のポータルサイトでのポイント付与が受けられなくなりますが、その影響をどう予測していますか。また、例年とは異なり、令和7年9月末にも駆け込み需要があると予測しますが、戦略はありますか。

伝統的工芸品産業担い手育成事業費負担金について、お伺いします。

とこなめ陶の森の研修生の現状と、過去3年の修了生が常滑市で仕事ができているかについて、お伺いします。

農業・漁業について、お伺いします。

家畜感染対策は県が主体的に対応しますが、今回の鳥インフルエンザで明らかになった市の課題や対策はありますか。

栄養塩対策について、県内他地区の管理運転をどう評価していますか。また、本市が参考にできる効果的な取組はありますか。

2024年9月に単独参加したツーリズムEXPOジャパン2024の成果や手応えと、2025年9月に愛知県国際展示場Aichi Sky Expoで開催されるツーリズムE

XPOジャパン2025愛知・中部北陸で、常滑市の何をPRの目玉とするのかを含めた意気込みをお聞かせください。

常滑市陶磁器会館の耐震診断の結果が芳しくなかったことを受け、常滑市陶磁器会館の在り方検討の進捗状況をお聞かせください。

物価上昇の影響を緩和するため、国の交付金を活用し、対象店舗で使える一人当たり1,000円クーポン券を全ての市民に配布する事業について。

郵送料の値上げ等を勘案し、対応可能な世帯に向けたデジタルクーポンの実証実験を行う考えはありますか。

基本目標の7つ目「みんなで創る、持続可能なまち」を実現するための主な事業について、お伺いします。

業務の生産性向上による市民サービスの質の向上を図るとともに、職員が働きやすい職場にするため、常滑市役所及び常滑市保健センターの開庁時間が短縮されますが、市民への効果を市民に分かりやすくご説明ください。

男女共同参画推進啓発事業について、お伺いします。

生理の貧困問題の対策として、小中学校の女子トイレに生理用品を設置されますが、設置する生理用品に、子供が抱える生理や相談しにくい悩みの窓口を紹介するチラシやQRコードを添えてはどうか。

老朽化した施設を計画的に修繕し、長寿命化を図る事業について、お伺いします。

常滑市体育館の大規模改修について。

古くなった設備の更新も検討されますが、その設備が必要か必要ではないかの検討はされましたか。

常滑市体育館の駐車場は集客のある催し物が開催されるときのみ、駐車場が不足します。常滑公園の芝生広場を開放することもあります。雨天時には芝生広場への乗り入れができません。臨時駐車スペースを用意する考えはありますか。

最後に、ボートレースとこなめについて、お伺いします。

若年層に向けた新ユーチューブ動画配信に、1億3,200万円を捻出します。事業の詳細と既存のボートレースユーチューブ番組とのセールスポイントの違い等の戦略をお伺いします。

◎市長

初めに、市税収入と財政運営について、お答えさせていただきます。

まず、常滑の未来づくりについてでございますが、新年度からは、第6次常滑市総合計画の後期計画に移行します。ボートレースとこなめは、これまでに1,200億円を超える収益金を市に繰入れておりますが、厳しい財政状況が続く中、今後のまちづくりのかじ取りは非常に困難が予想されます。しかし、私は、課題こそが行政の知恵や創意工夫を発揮する絶好のチャンスであると信じております。

まずは、総合計画に位置づけた各施策を着実に進めてまいります。中でも地域の資源を最大限に活用することが重要と考えております。本市には、空港をはじめ、魅力的な自然環境や特産品、歴史的な文化など、多くの資源が存在します。

これらを生かした観光施策や地域産業の発展を図り、市民の皆様や事業者と連携を強化した上で、地域の皆様に寄り添ったまちづくりを進めたいと考えております。

そして、次に、子育て世代が住みやすい環境づくりにも注力してまいります。本市の未来を託す子供たちが安心して成長できるよう、子育て支援の充実はもちろん、幅広い年代

が使える公園整備を進め、本市の目指す町の姿「とことん住みたい 世界とつながる 魅力創造都市」の実現に向け、不斷の努力で一層、取り組んでまいります。

続きまして、本市発展のターニングポイントになった中部国際空港セントレアについて、お答えさせていただきます。

中部国際空港セントレアへの協力・支援についてでございますが、平成17年2月の空港開港により町の姿は大きく変貌しました。セントレアは地域経済の活性化を図る重要な拠点であり、今後も機能強化を進めていくことが大切です。本市では、空港会社及び空港関連会社から要望のありました、早朝夜間にも対応できる私立認可保育園の整備等を推進してまいりました。今後も、市といたしましては、航空需要の拡大につながる施策に取り組み、セントレアのさらなる発展とともに、地元市としての役割を果たし、地域全体を盛り上げていきたいと考えております。

続きまして、空港島シャトルバス運行事業について、お答えさせていただきます。

これまで、空港島から市街地への誘客が本市の抱える観光の大きな課題となっておりましたが、愛知県国際展示場で大きなイベントが開催される際に、実施してきた実証運行で、一定の成果があったことから、来年度から宿泊税を活用し、毎日運行の試行を始めることといたしました。バスの名称は、トコナメシャトル、トコタンを模したラッピングで装飾いたします。ラッピングしたバスが、毎日運行をすることで、観光客の皆さんに市街地と空港島間の足として、認知してもらいやすくなることから、多くの方に市街地にお越しいただき、観光を楽しんでいただけたらと思います。そして、さらなる来訪者や観光消費額の増加につなげてまいりたいと考えております。

続きまして、基本目標の1つ目「子どもが健やかに育ち、輝けるまち」を実現するための主な事業について、お答えさせていただきます。

まず、給食費無償化に関する要望につきましては、今年度、全国市長会及び全国都市教育長協議会として、国に対し「給食費の完全無償化」を提言・要望しており、その他、知多4市5町の首長名で自民党愛知県支部連合会に対しても要望しております。今後も、他自治体と連携しながら、機会を捉えて要望してまいります。

次に、こども家庭センターの成果についてでございますが、母子保健機能を持つ健康推進課、児童福祉機能を持つ子育て支援課の情報共有システムを改修するとともに、両課併任の保健師を統括支援員として配置し、支援に係る検討会議やケースの対応等において、情報の集約、助言、指導等を行いました。また、虐待を受けた子供を発見した時の対応について、関係機関とともに研修を実施し、連携強化と支援力向上を図ることができました。

次に、児童育成クラブの集約実施による災害時の避難対応についてでございますが、保護者へ配付する利用ガイドで全クラブの避難場所を周知するとともに、各施設の入り口に避難場所を掲示しております。また、職員が避難経路を実際に歩き確認するとともに、子供たちがいざというときに慌てず行動できるよう、地震や火災などの避難訓練を毎月行っております。

続きまして、基本目標の2つ目「創造性や豊かな心を育むまち」を実現するための主な事業について、お答えさせていただきます。

まず、地域未来塾につきましては、従来の集団指導方式から、民間委託による個別指導方式とすることで、質の高い講師の安定的な確保に努めるとともに、生徒個々に寄り添った指導による、学習意欲や学力の向上を期待するものでございます。

次に、不登校対策の居場所につきましては、各施設が連携することで、一貫した支援体制の構築と、個々の状況に合わせた学習環境・居場所の確保につながるとともに、合わせ

て、支援担当者が顔を合わせる情報交換会等を行うことで、情報共有の促進や職員の資質向上を期待するものでございます。

次に、不登校の児童・生徒へのアウトリーチ支援につきましては、各校の教職員に加え、必要に応じて専門職のスクールソーシャルワーカーが関与し、個々の事情に応じた関係機関と連携を図ることで、不登校児童が学校復帰に至ったケースもございます。今後も適切な支援に努めてまいります。

また、不登校傾向の若年化につきましては、早い段階で相談ができる環境や、学校内での居場所の確保が必要であることから、小学校への校内サポートルームの早期整備が必要であると考えております。令和7年度には、まず2校で整備し、以降、順次、拡大することで、小学校における支援体制を強化してまいります。

次に、図書館の基本構想策定委員会メンバー構成についてでございますが、有識者や図書館関係者、学校関係者、市民、その他、市の関係者等による構成を想定し、現在、関係者と調整を図るなど、委員会の立ち上げに向けた準備を進めているところでございます。

次に、単独整備の総予算につきましては、具体的な整備方針等が固まってない現時点において、お示しすることは困難であります。今後、基本構想の策定作業を進める中で、概算費用も含めて検討してまいります。

また、整備手法につきましては、公共施設アクションプランの中期計画でも、複合化から単独整備へ方針を変更いたしましたので、このプランに沿って、単独整備に関する検討を進めてまいります。

次に、アジア・アジアパラ大会に向けた機運醸成につきましては、児童・生徒をはじめとする市民の皆さんが、体験や交流を通じて競技への関心が高まり、大会の機運醸成につながる機会が創出できるよう、大会関係者や競技団体と連携を図りながら、検討してまいります。

また、ボートレースとこなめでは、協賛レースとして「愛知・名古屋アジア・アジアパラ大会協賛競走」を本年度に2回、令和7年度に2回、令和8年度に1回の計5回、大会に向けて実施いたします。レース期間中の5月18日には、トコタンホールにて大会のPRブースを設置し、12月3日には、大会のノベルティ配付、アジアパラ競技大会のマスコットキャラクター、ウズミンのお披露目と、車椅子「パラサポ！ミライ」の試乗体験を大会組織委員会と連携して実施しております。令和7年度以降につきましてもレース開催時に大会PRイベントを実施する予定でございます。

次に、日本財団から寄贈を受けた車椅子の活用につきましては、インクルーシブ教育を推進するため、小中学校の運動会における車椅子リレーや体育の授業、また、地域のパラスポーツイベント等で活用してまいりたいと考えており、教育委員会から校長会に対して、各学校での積極的な活用について呼びかけを行ったところでございます。

2月23、24日にはボートレースとこなめにおいて、パラスポーツの体験イベント「スポパラ！」を実施し、多くの方に車椅子バスケットボールなどの体験をしていただきました。今後もこのようなイベントを継続的に実施し、車椅子を活用していく予定でございます。なお、車椅子はレース場で保管しており、ふだんはコミュニティパークGrunとこなめにおいて、来場者が体験できるようにしております。

次に、技能五輪国際大会を契機とした海外選手との交流事業についてでございますが、大会には65の国と地域から、約5,300人の参加が見込まれており、大会基本計画によりますと、公式行事の一つとして海外選手と児童・生徒が交流する、「一校一国サポート事業」が計画されておりますので、これを踏まえて企画を検討してまいりたいと考えておりま

す。

次に、とこなめ陶の森陶芸研究所の耐震工法検討のための基本調査の進捗につきまして、昨年12月に調査結果が出たことから、それを踏まえて4月に3回目の耐震工法検討専門家委員会を開催し、専門家のご意見を伺う予定でございます。その後、常滑市陶業陶芸振興事業基金運営委員会を開催し、委員の皆様のご意見も踏まえた上で、市の考えを議会にお示ししたいと考えております。

次に、平和学習派遣事業につきましては、本年度、一部自己負担をお願いしたにもかかわらず、20名の定員を大きく超える38名の応募をいただいたところで、参加した児童からは、「平和の大切さを直接学べる貴重な体験をした」という感想が多数あったほか、各学校で報告会が実施されるなど、大変、意義のある事業でございました。令和7年度も広島への派遣を想定しておりますが、将来的には、行き先や実施内容等を検証し、必要な見直しを実施してまいります。

続きまして、基本目標の3つ目「共に生き、支えあい、安心して暮らせるまち」を実現するための主な事業について、お答えさせていただきます。

まず、4月1日からの地方独立行政法人知多半島総合医療機構知多半島りんくう病院の診療科の増減といたしまして、脳神経外科を地方独立行政法人知多半島総合医療機構知多半島総合医療センターに集約しますので、地方独立行政法人知多半島総合医療機構知多半島りんくう病院におきましては脳神経外科外来がなくなります。一方、内分泌・糖尿病内科の医師が新たに常勤として地方独立行政法人知多半島総合医療機構知多半島りんくう病院に赴任することから、内分泌系の疾患につきましては体制が充実するものと考えております。

次に、緊急車両退出路整備事業の進捗状況でございますが、新病院開院までの供用に向けて順調に進んでおります。運用開始につきましては、地方独立行政法人知多半島総合医療機構知多半島総合医療センターの救急受入開始に合わせ、4月2日の午前8時半を予定しております。

次に、知多半島総合医療機構事業費の今後の推移でございますが、事業費のほとんどを占める運営負担金につきましては、令和8年度は令和6年度に整備した病院の建設改良に係る企業債償還金の増加に伴い、8.5億円程度に増額いたしますが、その後は統合前に整備した施設等に係る企業債の償還終了に伴い、7億円から7.5億円程度での推移を見込んでおります。診療報酬改定をはじめ、物価高騰など医療を取り巻く環境が変化しており、先行きが見通せない中ではございますが、現在は5年間で計37億円、単年度の平均で7.4億円を見込んでいるところでございます。

次に、婚活イベントの実施方法につきましては、知多半島5市5町で構成される「知多半島で縁むすびプロジェクト実行委員会」を設立し、令和7年度から令和8年度の2か年に各年度5回、計10回の婚活イベントを、5市5町それぞれ1回ずつ実施いたします。詳細については、今後開催される実行委員会にて決定する予定でございます。

続きまして、基本目標の4つ目「安全な暮らしを守るまち」を実現するための主な事業について、お答えさせていただきます。

まず、耐震診断の進捗状況についてでございますが、常滑市建築物耐震改修促進計画では、旧基準の木造住宅は5,810戸存在すると推計しており、無料耐震診断は今年度末で1,937件となる見込みでございます。

次に、木造住宅密集地域の防災性の向上策や住環境の改善策についてでございますが、

令和6年能登半島地震の教訓を踏まえて、住宅密集地における消火活動について再確認するとともに、耐震化の促進、電気火災を防止する感震ブレーカーの啓発及び空き家対策などを実施してまいります。

次に、長期の避難生活に備えたトイレカーの導入につきましては、生活の質を向上させる極めて有効な手段と考えておりますが、各避難所で活用することを考え、保有ではなくレンタルを想定しております。

また、マンホールトイレにつきましては、公共下水道が接続している箇所では設置が可能であるものの、避難所運営においては、トイレに加え、炊き出し、給水、ペットなど限られたスペースにどう配置すべきかという課題もございます。将来的なマンホールトイレの整備も視野に入れつつ、当面は、携帯トイレを基本とし、トイレカーや仮設トイレのレンタルで対応してまいります。

次に、直結給水できる水飲み場の整備につきましては、災害時に、防災倉庫で保管している給水器具を応急給水栓に接続し、簡易的な水飲み場を提供してまいります。

次に、応急給水栓の設置状況と今後の計画でございますが、市役所や消防署、避難所などの25か所を重要給水施設に位置づけ、計画的に応急給水栓の整備を進めております。今年度までに16か所の設置が完了し、来年度、残る9か所のうち市民交流センター、鬼崎中学校及び空港島の3か所に設置を進めてまいります。

次に、令和8年度からの総合防災訓練についてでございますが、現在実施している資機材の取扱い訓練から一歩進め、避難所の運営訓練への移行を考えており、詳細につきましては、今後検討してまいります。

次に、自主防災組織強化策につきましては、地域防災力を向上させるため、地区防災訓練を活性化させるとともに、自主防災会の設立や、地区防災計画の作成などを支援するため、各地区へ活動事例などを紹介してまいります。また、広く一般市民に対して、防災活動に興味や関心を持っていただける内容の防災講演会を開催し、若年層が自主防災組織に関わるきっかけづくりも重要であると考えております。

次に、消防団の体制強化につきましては、団員の確保と災害対応能力の向上が必要だと考えております。団員の確保は、年間を通して積極的な広報活動を行っておりますが、入団までには至らず、今後も厳しい状況が続くと考えております。新規入団者の大幅な増加が見込めない中、今年度から団員の処遇改善・負担軽減を図ることで退団者の減少を食い止めると同時に、実戦的な訓練を効果的・効率的に実施することで、災害対応能力の強化を図ってまいります。

次に、増設した資源回収ステーションの供用開始についてでございますが、通常の休業日にあたる4月2日、3日の2日間で資源物コンテナ等の移設作業を行い、4月4日から供用開始を予定しております。

また、既存の資源回収ステーションの臨時休業につきましては、刈草・剪定枝の受入れは、当面は従来どおりの運用方法とし、並行して仕様変更を進めますことから、臨時休業等の予定はございません。

また、刈草・剪定枝の受入量につきましては、自宅の庭などの手入れ等での出る量を想定し、目安として1人、1日、軽トラック1台の量までとしており、その考えを変更する予定はございません。

続きまして、基本目標の5つ目「快適に過ごせる生活基盤が整備されたまち」を実現するための主な事業について、お答えさせていただきます。

まず、常滑駅東駐輪場の利用状況についてでございますが、定期利用につきましては、

自転車440台、バイク50台の収容台数に対しまして、3月の事前受付では自転車112台、バイク3台の申込みがありました。3月1日にオープンした後の利用台数は、3日までの3日間で、定期利用は、延べ78台、一時利用は、延べ10台でございました。

次に、常滑駅東ロータリーの整備計画についてでございますが、令和9年度の供用開始を目指し、来年度に工事着手する予定で、本ロータリーは、送迎車両専用とし、円滑に運用できるよう整備を進めてまいります。

次に、公共下水道接続報奨金の現状についてでございますが、今年度の実績は2月末時点で127件と、予算計上した130件を上回る見込みとなっております。

次に、上下水道管の維持管理の現状についてでございますが、まず上水道管の老朽化対策は、管路の更新を図ることになります。幹線管路については、耐震化を進めることにより更新しており、支線については公共下水道の面整備に合わせ更新を図るとともに、特に漏水原因となりやすい塩ビ管については、重点的に更新を図っております。

また、下水道管についてでございますが、公共下水道は、施設の重要度に応じて、おおむね5年から15年に一度点検を実施することが定められており、令和4年度から順次、管路調査を実施しております。その他の管路については、職員による道路パトロール等において異状の早期発見に努めております。

次に、オンデマンドタクシーmob iの実証実験についてでございますが、今回の実証実験では昨年10月から12月の3か月間で、718件、延べ930名の方にご利用いただき、利用者アンケートでは、特に利便性を評価いただきました。また、昨年度からの2度の実証実験を経て、課題、ニーズの把握や関係事業者のノウハウ獲得など、実装に必要な準備を進めることができたと考えております。今後につきましては、地域公共交通協議会を中心にその導入について検討してまいります。

次に、公園再整備等による新たな魅力づくりについてでございますが、公園施設の充実、人々が集い活気あふれる町の形成につながり、住民の生活の質の向上が期待できるものと考えており、行きたい、また来たいと思ってもらえる公園づくりを目指し、遊具のリニューアル、再整備等を進めてまいります。今年度、リニューアルした松原公園の複合遊具は、子供たちでにぎわっており、整備効果を実感しているところでございます。一方で、一部の利用率の低い公園については、地域特性を踏まえた上で、遊具施設等の集約化または廃止、機能分担等について検討していく必要があると考えております。

次に、旧市民病院跡地の活用促進の現状についてでございますが、コロナ禍後に、事業者から跡地利用の問合せが増えてまいりました。事業者からの様々な提案に対し、幅広く、柔軟に対応できるよう、まずはその前段となります、本市の土地利用方針を示した、都市計画マスタープランの改定作業を進めているところでございます。

今後、プランの改定に合わせ、本市の活用方針を明確にした上で、社会の動向や需要を見極めつつ、適切な時期に事業者募集を実施してまいります。

次に、やきもの散歩道の古い町並み等の魅力を未来に残すことについてでございますが、常滑焼千年の歴史を象徴するような、やきもの散歩道の古い町並みと、セントレアや愛知県国際展示場、りんくうビーチのような、新しい町並みのコントラストが楽しめるのが、本市の魅力と考えております。国の重要文化財に指定されている登り窯につきましても、保存の検討に必要な調査を進めているところでございますが、残すべきものはしっかりと残していけるよう、市の施設、民間の建築物や工作物など、それぞれ適切な方法を調査研究してまいります。

続きまして、基本目標の6つ目「魅力にあふれ、人が集い、進化するまち」を実現する

ための主な事業について、お答えさせていただきます。

まず、ふるさと納税ポイント付与廃止の影響についてでございますが、寄附控除及び返礼品の提供につきましては変更がないため、ポイント付与の廃止により寄附額が大きく落ち込むまでの影響はないと見込んでおります。また、駆け込み需要への戦略につきましては、寄附促進に向けてのメルマガや特集記事掲載、ポータルサイトの広告、レビューキャンペーン、また、昨年では年末に向けて実施している過去の寄附者への案内の送付などを8月末に向けて行ってまいります。

次に、とこなめ陶の森の研修生の現状についてでございますが、現在研修生は1、2年合わせて9名在籍しております。そのうち、今年度末、研修を終える5名の研修生のうち、4名が市内で焼き物の関係の仕事に従事する予定でございます。また、過去3年間の修了生10名のうち、市内を拠点に焼き物関係の仕事に従事している人は8名となっております。

次に、鳥インフルエンザ対応での課題についてでございますが、一例を申し上げますと、今回の鳥インフルエンザ対応では、防疫作業を県が民間に委託する際に使用する、ベースキャンプの提供に時間を要しました。この対策といたしましては、平常時から発生を想定したシミュレーションを行うことが重要であると考えております。

また、今回の事案で防疫作業が進んだ要因の一つとして、発生当初から地元区に多大な協力をいただいたことが挙げられ、今後は地区を含めた体制の整備が必要と考えております。こうした課題や反省点などにつきましては、取りまとめをし、本市のマニュアルの見直しに生かしてまいります。

次に、栄養塩対策の評価等についてでございますが、三河湾における管理運転の社会実験の結果、水質に悪影響がなく漁業生産に効果があり、特に、ノリの色落ちが軽減したことから、高く評価できると考えております。三河湾では窒素とリンの濃度を国の規制値上限まで緩和して放流する実験を実施しており、伊勢湾においても緩和できるよう、今後も県に働きかけてまいります。

次に、ツーリズムEXPOジャパン2024の成果・手応えについてでございますが、130社以上の観光事業者と商談し、国内外のメディアに取り上げられたり、新たに市内をめぐるツアーが増勢されるなど、出展前にはなかった効果につながっております。また、招き猫とこにゃんの巨大パネルの設置や、常滑焼の急須でお茶淹れ体験、鬼崎ノリの振る舞いなどで常滑市のPRを行うことにより、国内外の旅行ファン、旅行事業者など多くの方に常滑市を知っていただくことができました。

また、今年9月に愛知県国際展示場で開催される、ツーリズムEXPOジャパン2025に向けた意気込みにつきましては、橋を一つ渡ればすぐ行ける観光地とこなめを、ブースの装飾、リーフレットやノベルティ、常滑市を感じられる体験などを通して、国内外の旅行事業者、旅行ファンにPRし、そのまま市街地に訪れていただき、常滑市の良さを知って楽しんでいただきたいと考えております。

次に、陶磁器会館の在り方の検討の進捗状況につきましては、現在、検討の材料として必要な、これまでの経緯や観光施設としての必要な機能、利用者ニーズに沿った整備を行うためには、どのような方々に何をヒアリングするのか、また建て替えや改修の費用は、どれくらいかといったことについて調査をしているところでございます。今後の在り方につきましては、これからの調査をしていく中で、考えてまいります。

次に、デジタルクーポンの実証実験につきましては、多くの方がスマートフォンをお持ちになられておりますが、不慣れな方も一定割合おられますので、市民全員に使っていた

だけるよう紙のクーポンを郵送する予定でございます。

最後に、基本目標の7つ目「みんなで創る、持続可能なまち」を実現するための主な事業について、お答えさせていただきます。

まず、開庁時間の変更による市民への効果についてでございますが、開庁時間の変更により生み出された時間を、他の政策立案等に費やすことで、行政サービスの質の向上を図りたいと考えております。現在、転出届や児童育成クラブの申込みはスマートフォンで申請したり、住民票などの証明書はコンビニで取得したりすることが可能です。このように、市民の皆様が市役所に来ていただくなくてもできる手続を市は「行かない窓口」と呼び、今後も取組対象を拡充することで、窓口にお越しいただく手間や待ち時間全体を削減できるものと考えております。

次に、生理の貧困問題の対策として、学校のトイレに設置する生理用品につきましては、生理用品を入れるボックスに、児童・生徒の心身の健康を的確に把握しケアする立場である、養護教諭への相談を促すような表示をしてみたいと考えております。

次に、市体育館の改修についてでございますが、指定管理者への聞き取りを行い、更新の必要性や更新範囲を精査しつつ、事業費の抑制も図りながら、設計内容を固めてまいりました。

また、駐車場が不足する場合の対応につきましては、敷地内での対応を原則としておりますが、昨年の大相撲のように、数千人規模が来場する行事では物理的に駐車が困難となります。こうした場合には、イベントの主催者とも相談しながら、サテライト駐車場の確保や、乗り合わせによる来場を促すなどのソフト対策も含め、調整・対応してまいります。

最後に、ボートレースの若年層向け新番組ユーチューブ動画配信につきましては、出演タレントと一緒に、ボートレースの知識や面白さを予想やトークを交えて伝えることで、ボートレースとこなめファンの定着化を図ることを目的として、現行の「にゃんこの目」に加え、新たなチャンネルを開設し、常滑本場開催レースの配信を行うものでございます。

現行の番組は、予想主体ではなく、エンジン評価や元選手による解説など、ボートに詳しいファンに向けた内容となっており、視聴者層が限定されていることから、新番組の開始により、ボートレースを始めて間もないファン層に向けて、既存番組と合わせて、ボートレースとこなめファンの囲い込みを図ってまいりたいと考えております。